

ポンプ爆破も計画か

不知火 海漁民 県警に対策委員会

県警本部はさる二日新日窒水俣工場で騒ぎを起した不知火海沿岸漁民を制止しようとして警官と漁民の双方に百三十余人の負傷者を出した事件についてこんごの対策を検討していたが、十日同本部に水俣問題対策委員会を設け、断固たる態度でのぞむことになった。

民の決意を反映させるため、十五日に前回を上回る大衆動員を行ない、ダイナマイトなどで工場側の工業用水の揚水ポンプを破壊する計画もあるといわれ、再び大規模な騒ぎが予想されている。そこで警察本部は慎重に事件の防止策をねっていたもの。警備動員計画もすでにできているが、職務を完全に執行するためには千人を超える警官の動員が必要で、場合によっては持凶器集合罪などの適用も必要という。

◇上原本部長の証 情報がほんとうだとすれば、こんどの漁民大会は前回を上回る人数を集めるときいており、警備問題で頭を悩ませている。漁民の現状はよくわかるが不法行為は絶対に見

逃がすわけにはいかない。断固たる態度でのぞむことは当然、すでに準備もできている。また問題の「原因」についても厚生省などでちかく結論がでると思うが、もし会社の方に業務上の過失があれば各関係筋とも連絡検討して処することになる。